

「東京五輪アーカイブ 1964-2020」が大幅アップデート

～1964 東京五輪の記憶遺産を未来に伝える多元的デジタルアーカイブ～

首都大学東京と朝日新聞社は、2020 年五輪東京大会に向けて昨年から共同で取り組んでいる報道写真アーカイブ「東京五輪アーカイブ 1964-2020」をこのほど大幅にアップデートし、本日公開しました。スマートフォン・タブレット端末に対応。さらに、国土地理院の空中写真をレイヤに追加したほか、コンテンツの一部を英訳して海外にも発信します。

さらに、本アーカイブと連動した大学間の連携もスタートしました。本年は、「64 年大会の東京の記憶を 2020 年につなぐ」という連携課題に、慶應義塾大学、宮城大学、首都大学東京でそれぞれにメディアデザインを学ぶ学生たちが挑みました。

【みどころ】

「東京五輪アーカイブ1964-2020」は、64年大会当時に朝日新聞社が撮影した5千枚超のストックから厳選した写真を、デジタル地球儀「Google Earth」の三次元地形や建物モデルに重ね、この半世紀における日本人の暮らしや東京の街並みの変遷を可視化し、今に伝えます。



5 年後の近未来を見すえたアーカイブは首都大学東京システムデザイン研究科の渡邊英徳研究室渡邊研究室のホームページや朝日新聞デジタルの特設ウェブサイトからご覧いただけます。

○東京五輪アーカイブ 1964-2020
<http://1964.mapping.jp/>

○朝日新聞デジタル 特設サイト
<http://www.asahi.com/special/tokyo1964/>

【バージョンアップの概要】

【スマートフォンに対応】 これまでの「Google Earth」から、オープンソースソフトウェアの「Cesium」にコンテンツを移植しました。このことによって、PC だけではなく、iOS、Android スマートフォンのブラウザでも追加プログラムをインストールすることなく、軽快に閲覧できるようになりました。

【国土地理院の空中写真を追加】 国土地理院が配信している「地理院タイル」を利用し、1961 年から 64 年に撮影された空中写真のレイヤを追加しました。このことによって、64 年大会当時と、現在の空中写真を比較し、50 年間の東京の変遷をみることができます。また、オープンストリートマップを利用し、現在の地図のレイヤも追加しています。

【英訳で海外発信】 朝日新聞フォトアーカイブが提供する写真資料 228 点の説明文を英訳しました。インタビュー記事についても、近日中に英訳版を公開する予定です。

【高大連携活動によるインタビュー記事の拡充】

東京都内の高校生有志がインタビューアーとなり、64年五輪の代表選手や大会関係者らに聞き取りを重ねる、20世紀の日本人の「記憶」をアーカイブ上の記事として紡ぐ「会って、聞いて、伝えて」シリーズを拡充しました。

12月1日現在、5本のインタビュー記事を掲載しています。今後も参加校や協力者を募りながらコンテンツの拡充を図っていきます。



第1回は、64年五輪のサッカー日本代表選手であり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会評議員も務める川淵三郎

【写真】川淵三郎と工学院大学附属高等学校の学生有志

- ・第1回：川淵三郎＝64年五輪のサッカー日本代表選手（公立大学法人首都大学東京理事長）
- ・第2回：川口衛さん＝丹下健三の下、代々木体育館の構造設計を担当
- ・第3回：山下敏男さん＝カーデザイナー。フェアレディZ32の生みの親
- ・第4回：柳原良平さん（故人）＝イラストレーター。「東京オリンピック1964デザインプロジェクト」の一員として、世界初となるピクトグラムの開発に従事
- ・第5回：田中良明さん＝亀倉雄策氏が作製した64年五輪ポスターのモデル

【大学連携プロジェクト】

【メディアデザイン・ワークショップ】本アーカイブと連動して、大学生対象のメディアデザイン・ワークショップを展開しています。2014年3月には、識者をレビューアとして招き、首都大学東京の学生作品の発表会を開催しました。課題作品の一部を、本年6月に交通記念館開館50周年企画展にて展示するとともに、「東京五輪アーカイブ1964-2020」特設ウェブサイトにも収録しています。

今秋からは慶応義塾大学環境情報学部の石川初研究室、宮城大学事業構想学部の中田千彦研究室・物部寛太郎研究室との大学連携課題をスタートしています。「1964年（五輪）の記憶・記録を2020年（五輪）につなぐ」をテーマに3大学の学生がチームに分かれ、デジタル地球儀やGISソフトを用い、「位置情報・地理情報」をベースとするデジタルフォトアーカイブ・メディアデザインの企画提案と作品制作に挑みました。去る12月6日（日）に、ITジャーナリストの林信行氏、写真家の大山頭氏をゲストに招いて、首都大学東京・秋葉原キャンパスにおいて講評会を行いました。

- ・「東京五輪アーカイブ1964-2020」首都大×慶應SFC×宮城大による合同課題（2015年9月）

<http://labo.wtnv.jp/2015/09/sfc-1964-2020.html>

デザインを切り口に、1964年（五輪）の記憶・記録を2020年（五輪）につなぐことを考える。

学生作品 「国立競技場のモザイクアート」



首都大学東京・宮城大学混成チームによる作品
千枚以上の1964年大会当時の写真で構成



[参考資料]

ネットワーク演習課題：「東京五輪アーカイブ Plus」(2014年12月)

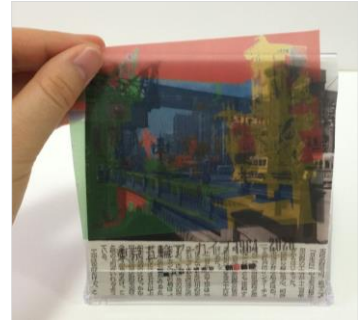
<http://labo.wtnv.jp/2014/12/plus.html>

「東京五輪アーカイブ 1964-2020」の未来へ向けた発展形を考える。

学生作品① 「コシンブン」 創作者：菊池月子さん・東山琳々子さん

新しい新聞の楽しみ方を提案する商品です。

旅行に行ったとき、ポストカードを選ぶように1964年(前後)の東京に旅にする気分でステッカーやシールを眺めてみてください。



〇コシンブンのFacebook ページ

<https://www.facebook.com/coshinbun>

学生作品② 「Focus Locus - 東京五輪アーカイブ 1964-2020」 創作者：小出慎之介君

歴史の転換点—戦後日本の復活の象徴—
しばしば東京五輪はこう例えられる。
それは光。しかし、光もあれば影もある。
本作品は光の当たらない部分に焦点を当てた作品である。



〇Focus Locus のWeb ページ

<http://1964.mapping.jp/focuslocus/>

【お問合せ先】

首都大学東京

渡邊 英徳

システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域

TEL:090-9835-2695

MAIL: hwtnv@tmu.ac.jp

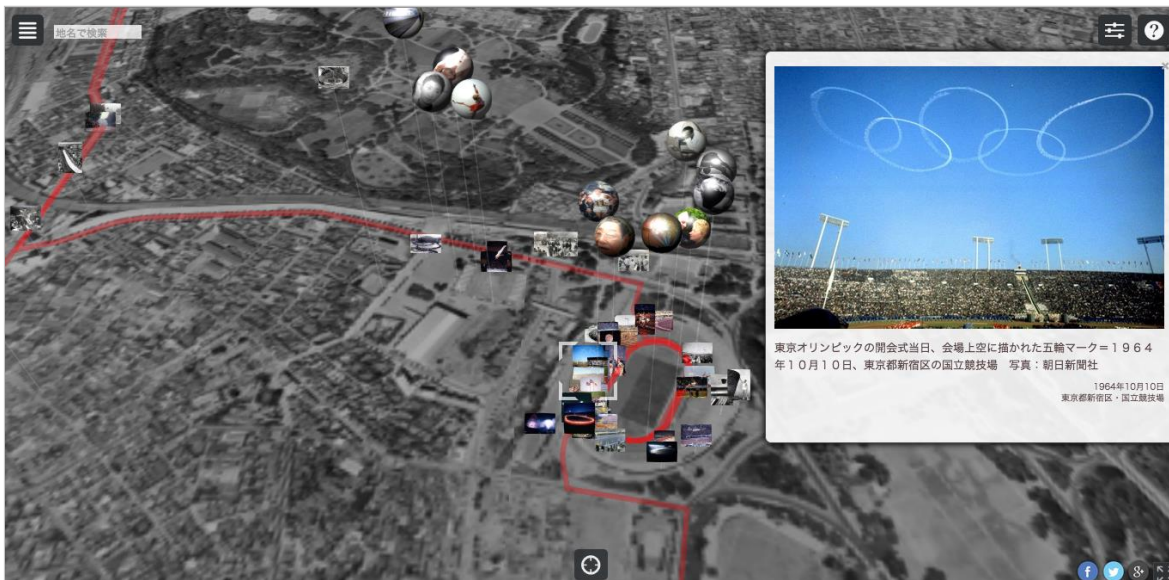
朝日新聞社 データベース事業部内 「朝日新聞フォトアーカイブ」

TEL:03-5541-8138

MAIL: gorin-p@asahi.com

「東京五輪アーカイブ 1964-2020」について

「東京五輪アーカイブ1964-2020」は、首都大学東京の渡邊英徳研究室と朝日新聞フォトアーカイブが共同で制作、運営しています。朝日新聞社が所蔵する1964年大会当時の写真を3次元地形や建物モデルに重ねることで、この半世紀の日本人の暮らしや東京の街並みの変遷を今に伝えます。このプロジェクトは、2020年まで続きます。みなさまから寄せられた情報も掲載していきたいと考えています。



●掲載資料 (2015年12月1日現在)

- 写真 約230点 (朝日新聞社)
- 過去記事約 50点 (朝日新聞社)
- 東京都広報資料 50点 (東京都公文書館)
- 関係者インタビュー 5点

●「東京五輪アーカイブ 1964-2020」制作チーム

[首都大学東京] 渡邊英徳研究室 <http://labo.wtnv.jp/>

メンバー：渡邊英徳、井口香穂、木村汐里、佐野大河、長濱啓輔

[朝日新聞フォトアーカイブ] <http://photoarchives.asahi.com>

[工学院大学附属高等学校] <http://www.js.kogakuin.ac.jp/index.html>

メンバー：有山裕美子、纓坂誠、石橋樹、岩澤佳生、菅野友彦

●朝日新聞フォトアーカイブ

朝日新聞フォトアーカイブは、朝日新聞社が所蔵する写真を公開し、広く活用していただくために2010年4月に開設された写真データベースです。朝日新聞社が所蔵する約2千万点の写真コンテンツのデジタル化を急ピッチで進めています。現在約2百万件の写真のデジタル化を終え、日本有数の報道写真アーカイブとなっています。1964年の東京五輪関係では、当時撮影された五輪の競技写真に加え、生活風俗、街の移り変わりなど、多角的な報道写真約5千点をデジタル化。聖火リレーの写真は、全都道府県をくまなく網羅しており、東京五輪アーカイブでも紹介しています。みなさまに写真を広くご活用いただくため、専用Webサイトを作成し、デジタル化した写真を紹介しています。